

講義の概要

担当教員 大賀哲

toga@law.kyushu-u.ac.jp

1. 成績評価

A) 出席課題＝減点のみ

減点方式で未提出の場合には3点ずつ減点します。

B) 小テスト(10点×3回)＝30点

持ち帰り試験。多岐選択式、短答式、穴埋め式。

C) 小レポート(30点×3回)＝90点

※別紙「課題リスト」参照

※授業内容に関連する課題を全部で6課題だすので、その中から3課題を選んで提出

※課題を3課題以上提出した場合は、成績の良い課題から上位3課題を成績対象

- ① A)～C)を合算して60点以上の場合に単位を認定します(合計点が100点を超えても100点として評価します)。
- ② 小テスト・課題共に WebCT(Blackboard) 上で受験又は登録して下さい。
- ③ 学業に関わる所用、就職活動、その他公欠に該当するような理由で欠席される場合には、事前にメールをいただければ Blackboard 上で課題を提出できるように調整します。
- ④ 欠席の連絡は月曜の授業については金曜夜まで、木曜日の授業については火曜夜までをお願い致します。また教育実習などで長期の欠席が予期される場合にはある程度余裕をもってお知らせください。

2. WebCT(Blackboard)の登録について

- ① <https://bb9.iii.kyushu-u.ac.jp/> 教育情報システムの ID とパスワードでログイン
- ② 「コースカタログの参照」を押下
- ③ 「カタログの検索」で「国際政治」と入力→「検索」を押下
- ④ LA14002 政治動態分析Ⅱ発展【国際政治学】 __2014 年度を選択
- ⑤ 矢印を左クリックして「登録」を押下

* 上記の方法で登録できない場合は、学籍番号、氏名を教員までメールでお知らせください。

3. 講義スケジュール

講義回	講義日	講義内容
第Ⅰ部 国際社会の基本構造		
講義(1)	4月14日(月)	ガイダンス+イントロダクション
講義(2)	4月17日(木)	国際政治学の来歴
講義(3)	4月21日(月)	国際社会の「国際」化
講義(4)	4月24日(木)1限	戦争違法化と国際法の革命
講義(5)	4月24日(木)	憲法九条(非戦平和思想)の国際的文脈 <u>(課題①)</u>
第Ⅱ部 国際法共同体と国家主権		
講義(6)	5月12日(月)	国際法の本質と「正しい戦争」(*月曜日の時間割)
講義(7)	5月15日(木)1限	国際法と国内法
講義(8)	5月15日(木)	国際社会における分権化/集権化(5月2日の補講)
講義(9)	5月19日(月)	主権国家の国際法上の意義 <u>(小テスト①)</u>
講義(10)	5月22日(木)	国際社会における戦争の変容
講義(11)	5月26日(月)	正戦論と殲滅戦争 <u>(課題②)</u>
第Ⅲ部 国際社会の規範—「法による平和」		
講義(12)	5月29日(木)	国際社会における自然法論と「法の支配」
講義(13)	6月2日(月)	国際法学の成立
講義(14)	6月5日(木)1限	戦争の法制化 <u>(課題③)</u>
第Ⅳ部 国際社会の動態—「外交による平和」		
講義(15)	6月5日(木)	旧外交と新外交
講義(16)	6月9日(月)	「危機の二十年」とリアリズムの登場
講義(17)	6月12日(木)	外交の復権
講義(18)	6月16日(月)	「法による平和」の限界 <u>(課題④)</u>
第Ⅴ部 国際政治学の形成		
講義(19)	6月19日(木)	ネオリアリズムの成立
講義(20)	6月23日(月)	パラダイム論争の展開
講義(21)	6月26日(木)1限	ポスト実証主義の登場と第三論争 <u>(小テスト②)</u>
講義(22)	6月26日(木)	国際社会の再構築
講義(23)	6月30日(月)	9.11以降のリアリズム <u>(課題⑤)</u>
第Ⅵ部 国際政治と国内政治の連関		
講義(24)	7月3日(木)	国家理性とヨーロッパの多元秩序
講義(25)	7月7日(月)	内政国家と勢力均衡論
講義(26)	7月10日(木)	近代日本の国際社会論
講義(27)	7月14日(月)	規範と現実の多層性(*月曜日の時間割) <u>(課題⑥)</u>
講義(28)	7月17日(木)	調整日 <u>(小テスト③)</u>

休講日	補講日
4月28日（月）	4月24日（木）1限
5月8日（木）	5月15日（木）1限
7月31日（木）	6月5日（木）1限
8月4日（月）	6月26日（木）1限

4. 課題の提出について

【基本ルール】

- A) 課題は、それぞれの上記〆切日までに Blackboard を通じて提出して下さい。なお、〆切日時は日本標準時で該当日の 23:59pmまでとします。
- B) 原則として、〆切日時以降の提出は受け付けません。またPC 其他不具合によって期限内での提出が難しい場合には必ず事前にその旨をご連絡ください(携帯メールを用いる、または他の受講生にメール代送してもらう等)。事前の連絡がない場合には、理由の如何を問わず未提出として処理します。Blackboard の不具合等の理由で提出が難しい場合には教員アドレス(toga@law.kyushu-u.ac.jp)まで直接メール添付で送ってください。
- C) 次の二例は不正行為とみなし、採点対象外とします。
- ① 他の受講生と同一の表現がある場合
 - ② 配布資料やその他の刊行物(インターネットソースを含む)と同一の表現がある場合
- *「同一の表現」とは、10文字以上の連続した文言に同一性が認められる文章を指します。
- D) 提出期限を厳守して頂く限り、講義資料や参考文献等、何を参照しても構いません。また、上記C)に抵触しない限り、他の受講生と相談の上で回答・提出をされても構いません。
- E) 課題は以下の5項目を30点満点で採点する。
- ① 【設問と回答】設問の趣旨を理解し、適切な回答が示されているか(6点)
 - ② 【内容理解】教科書・講義内容が理解できているか(6点)
 - ③ 【論旨と展開】単に教科書の言葉・術語を反復するのではなく、自己の言葉で論を展開できているか(6点)
 - ④ 【自己の見解】上記を踏まえた上で、自己の意見を展開できているか(6点)
 - ⑤ 【論理性・明晰性】自己の意見を論理的・説得的に展開できているか(6点)

【採点基準・詳細】

① 【設問と回答】設問の趣旨を理解し、適切な回答が示されているか(6点)

- 6点: 設問の趣旨を理解し、適切な回答が示されている
- 5点: 設問の趣旨を理解しているが、回答の記述が必ずしも適切ではない
- 4点: 設問の趣旨を理解しているが、回答が不完全または適切ではない
- 2点: 設問の理解が不十分で、回答が必ずしも設問に対応していない
- 0点: 設問の趣旨が理解されておらず、回答も設問に答えていない

② 【内容理解】教科書・講義内容が理解できているか(6点)

- 6点: 教科書・講義内容について適切な理解が示されている
- 5点: 教科書・講義内容が概ね理解できているが、一部の記述に誤りがある
- 4点: 教科書・講義内容の理解が必ずしも十分ではない
- 2点: 教科書・講義内容の理解が不十分である
- 0点: 教科書・講義内容が根本的に理解できていない

③ 【論旨と展開】自己の言葉で議論を展開できているか(6点)

- 6点: 教科書・講義内容を自己の言葉で再構成(解釈)し、明快な論旨が展開されている
- 5点: 明快な論旨が展開されているが、教科書・講義内容の文言の反復が見られる
- 4点: 教科書・講義内容は理解されているが、論旨が必ずしも明快ではない
- 2点: 論旨がやや曖昧で、教科書・講義内容の反復が目立つ
- 0点: 論旨が不明確で、議論の展開に整合性がない

④ 【自己の見解】自己の意見を展開できているか(6点)

- 6点: 自己の見解が必要十分に展開されている
- 5点: 自己の見解が展開されているが、必ずしも必要十分ではない
- 4点: 自己の見解がやや不明確で、論理展開も不十分である
- 2点: 自己の見解が不明確で、論理展開にも整合性がない
- 0点: 自己の見解が述べられていない

⑤ 【論理性】自己の意見を論理的・説得的に展開できているか(6点)

- 6点: 自己の見解とその根拠を示し、予想される反論や競合する見解への優位性が示されている
- 5点: 自己の見解とその根拠を示し、予想される反論や競合する見解についての言及が不十分
- 4点: 自己の見解は示されているが根拠がやや不十分
- 2点: 自己の見解の根拠が不十分または一貫性に欠如が見られる
- 0点: 自己の見解の根拠が述べられていない

【その他注意事項】

- ① 課題は「設問の趣旨」を適切に理解し、その上で「設問に対する回答」、「回答に至った経緯（根拠）」がきちんと明示されているのかを評価することが目的です。
- ② 課題は文字数を問うものではありません。上記【採点基準】を満たしていれば、長くても短くても構いません（採点基準の性質上、長ければ評価が高いというわけでも、短いから評価が低いというわけでもありません）。
- ③ 同様に、課題は知識量を問うものではありません（知識量を問うのが趣旨であれば、試験をすれば済むことなので…）。したがって、知識量が豊富であっても論旨の展開が不十分であれば評価は低くなりますし、多少知識が乏しくとも論理展開ができていれば、そこを評価します（逆に「論理なき知識の羅列」は評価が低くなります）。論点に気が付く「注意力」、それを展開する「思考力」を求めています。
- ④ 採点基準の性質上、講義内容や資料を単にまとめただけのものは評価が低くなります。
- ⑤ 判断材料や根拠を別の情報源（他文献や書籍など）から持って来ても構いません。情報どうしを比較して、それらをどのように解釈し、結論を導いているのかを評価します。典拠を明記し、「 」を付す等して引用部分と自己の見解を区別することが望ましいです。但し、Wikipedia その他インターネットソースなど、Authorship（著者名表示）のないものは引用として認めません（書かれていないものと見なします）。

例)「私は『平和と復興は清掃から』と思っている。自分の住んでいるところを自分の町だと考え、きれいにしようと思うことが、平和から復興への出発点ではないだろうか」(北岡伸一『外交的思考』千倉書房、2012年、52頁) *または注を付ける*

- ⑥ 基本的に教員の個人的選好が採点に反映されることはない、と考えてください。課題は皆さんの価値判断や主義主張それ自体を評価するものではなく、ある結論に至った論証の過程を評価するものです。したがって、皆さんが右翼であろうが左翼であろうが、帝国主義者であろうが無政府主義者であろうが、そうした選好は採点には一切反映されません。論理的に主張が展開されている限りにおいて、その部分を評価します。
- ⑦ 経験上、以下の特徴が含まれていると評価が低くなります。
 - a 結論のない文章。
 - b 理由付けや具体的な説明が伴っていないもの
 - c 議論を展開する上での主要概念が定義されていないもの、または難解な言葉を他の難解な言葉で言い換えただけのもの。その他、分かり易く論旨を展開しようという形跡の見られないもの(含む同語反復、カテゴリー・ミステイク)。
 - d 文意が明示的でないもの(明らかに複数の解釈が可能であるもの)

* 論旨の展開にも拠りますが、上記 a～d との関連で、論旨が**極端に曖昧なもの**は書かれていないものと見なします（「説明」というのは、**曖昧な点を明確にするために行なうもの**、とご理解ください）。

具体例

（難解な術語を他の難解な言葉で言い換えた例）

「ナショナリズムとは、国民がナショナル・アイデンティティを共有している状態である」

⇒ナショナリズムをナショナル・アイデンティティに言い換えただけで、説明になっていない

（同語反復 tautology の例）

「九州大学というのは、九州にある大学である」

⇒殆ど同じ言葉の繰り返しで、且つ繰り返したところで意味が明確になっているわけではない。

（カテゴリー・ミステイクの例）

異なった属性（カテゴリー）を持つ二つ以上の概念を同列に論じる（混同すること）

—例示①—

A: 「席は指定席にされますか、自由席にされますか？」

B: 「禁煙席をお願いします」

A: 「いえ、座席は指定席と、自由席、どちらになさいますか？」

B: 「いえいえ、**指定席ではなくて禁煙席**をお願いします」

⇒「指定席か、自由席か？」という問いに対して、「禁煙席か、喫煙席か？」という異なったカテゴリー属性から回答している。

—例示②—

「オックスフォード大学やケンブリッジ大学を初めて訪れる外国人は、まず多くのカレッジ、図書館、運動場、博物館、各学部、事務局などに案内されるであろう。そこでその外国人は次のように尋ねる。『しかし、**〈大学〉はいったいどこにあるのですか**。私はカレッジのメンバーがどこに住み、事務職員がどこで仕事をし、科学者がどこで実験をしているかなどについては見せていただきました。しかし、**あなたの〈大学〉のメンバーが居住し、仕事をしている〈大学〉そのものはまだ見せていただいております**。』」（ギルバート・ライル（坂本百大・宮下治子・服部裕幸訳）『心の概念』みすず書房、1987年、12頁）

オックスフォードやケンブリッジでは市内に点在するカレッジを総称して、オックスフォード大学、ケンブリッジ大学と呼んでいる。オックスフォード大学、またはケンブリッジ大学という建物があるわけではない。つまり上の文は、カレッジの組織体という「**制度**」としての大学と、「**建造物**」としての大学を混同している。

（文意が明示的でなく複数の解釈が可能である文の例）

- ・ 日本語は難しい（話すのが難しいのか、読むのが難しいのか、文法が難しいのか、不明確）
- ・ 日本人は政治に無関心である（選挙に無関心なのか、政策に無関心なのか、不明確）